

短期研修報告書

記入 | 2020年 3月
所属&学年 | 理学部 1年生

留学先大学（国名）	エディンバラ大学（イギリス）
短期研修のプログラム名	スコットランド特別研修
留学した期間	2020年2月22日(土)～3月15日(日) 23日間

1. 留学前の準備（応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など）

応募の理由としては、長期留学の練習のため、エディンバラは綺麗な町であり僕の好きなハリー・ポッターとダーウィンとの関係が深い場所であるため、イギリスに行ったことがなかったため、名古屋が退屈だったため等、多数あった。

日頃から外国人と話す機会を作っていたが、研修前はTEDを見たりBBCを聞いたり、特にリスニングに力を入れていた。

2. 研修内容や学校（内容と時間数・携帯、授業の感想、学生同士の交流など）

エディンバラ大学は古代の大学と呼ばれるほどの歴史があり、イギリスでも屈指の名門校。キャンパスはエディンバラ中に散らばっており、僕たちはそのうちの1カ所で主にアカデミックな状況で用いる英語について学んだ。内容は英会話のような発音の練習から、プレゼンやエッセイ、アンケート調査など幅広いものであった。スコットランドの文化、環境、教育等についても広く学べた。

先生や学生は皆親切で、面白い人が多く、授業はとてもリラックスできる雰囲気だった。英語もゆっくり話してくれるので、分からなくて焦ることもなかった。授業自体は休憩込みで1日4時間程度を月曜から金曜日まで、3週間ほど行った。授業後は基本自由時間であったが、博物館見学や伝統ダンスの参加等、エディンバラを満喫するための企画が入っていることも多かった。現地学生（メンター）との交流も多く、僕は彼らと買い物に行ったり、時間が空いたときに何時間か話したりして英語の練習をしていた。皆親切で話やすかった。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

コロナウイルスの影響でホームステイがキャンセルになり、僕たちはアパートに宿泊しなければならなかった。そのため、食事は外食か、自分たちで作るかのどちらかであった。イギリスのご飯はまずいとよく言われるが、おいしいものはいくらでもあった。しかし、野菜はやはり少ないように感じた。

健康管理としては、特に日本と変わらないが、野菜、果物が不足しないように注意はしていた。また、コロナ対策もかねて手洗いうがいはしっかりしていた。しかし、帰国直前に虫垂炎なり、手術する羽目になったので、体調管理ができていたのかよく分からない。

また、イギリスの病院は、心臓発作などの緊急時は対応が早いですが、それ以外は遅いらしい。自分から情報を聞かないとほとんど何も教えてもらえないので、入院した人は積極的に行動した方がいいと思う。

4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

財布、パスポートは肌身離さず持っていた。荷物からも目を離さずに注意していた。信号の仕組みが少し違うところがあり、車の動きには注意しなければいけなかったが、それ以外に特に危険を感じたところはなかった。エディンバラの治安は比較的良いと聞いていたが、夜の外出は控え、面白そうだったが路地裏の探検も我慢した。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

今回はホームステイキャンセルや虫垂炎等のアクシデントが多い研修であったが、英語を使うことに慣れることができ、アカデミックな場面で用いる英語、スコットランドの文化や伝統、現地の学生の考え方等、学べるが多かった。退屈な名古屋で過ごすよりも何倍も濃い有意義な時間を過ごすことができた。また、メンターや気の合った現地の学生と仲良くなれたことも大きな収穫だった。この研修を通して長期留学への意思も固まり、大学院も海外を大きく視野に入れることにした。

ホームステイのキャンセルは痛かったが、工夫すれば英語を使う機会は自分で作れたので、この研修をキャンセルした人たちは正直もったいなかったと思う。

留学を考えている人は行くべきだと思う。よほどやりたいことがない限り、ずっと日本にいても時間がもったいないと思う。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
プログラム費用	55万円	航空券代、授業料、ホテル宿泊費など
海外旅行保険	18530円	
食費	3万円	
現地での交通費	8000円	
その他（小遣い、通信費など）	6万円	
合計（研修のために払った費用）	約 67万円	

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付も歓迎します。

↓↓↓

エディンバラは長い歴史を持ち、世界遺産にも登録されている町であった。城や教会等の歴史的建造物も多く、観光していて飽きることはなかった。都会といっても公園や、Arthur's Seatのような緑の多い場所もあり息苦しく感じることはなかった。また、ハリー・ポッターと関連の深い場所も多く、ファンの自分としてはとても楽しめた。

左から、世界遺産 Forth Bridge、博物館(クローン羊のドリーがいる)、Victoria St(ハリー・ポッターのダイアゴン横町のモデル)



週末はロンドンに行く人が多かったが、僕はスコットランド国境付近をめぐるバスツアーに参加したり、イングランドの湖水地方、ウィンダミアに2泊3日で滞在したりと、自然の多い田舎でのんびり暮らした。ウィンダミアのバスツアーはコロナウイルスの影響か、参加者は僕一人であり、バスガイドさんとずっと二人で話せた。

左から、ロスリンチャペル (小説ダヴィンチコードで有名)、ウィンダミア湖、ウィンダミアのホテルからの眺め



帰国直前に入院しフライトを逃したが、おかげで滞在期間を数日のばせた。その間は医者や看護師、先生、メンターと1日何時間も英語で話せたため正直とても有意義だった。医療英語も自然に覚えた。退院後も先生やメンターは毎日会ってくれてとても親切だった。しかも、医療上の理由でフライトはビジネスクラスであり、快適に帰国できた。

保険会社や CIEE のスタッフの方、先生方には迷惑をかけました。ありがとうございました。

短期研修報告書

記入 | 2020年 3月

所属&学年 | 教育学部 1年生

留学先大学（国名）	エディンバラ大学（イギリス）
短期研修のプログラム名	スコットランド特別研修
留学した期間	2020年2月22日(土)～3月15日(日) 23日間

1. 留学前の準備（応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など）

入学時から留学を意識はしていたが、最初から長期留学に行くことに不安があった。一年冬での短期留学を考え、オレゴンとエディンバラの二択から、一度ロンドンに旅行していたこと、より語学の勉強を重視したプログラムであることからエディンバラを選んだ。

夏休みに IELTS 講座を受講し、8月と9月に IELTS を受験（6.5, 7.0）。英検準一級を11月に取得。試験を受けることで、英語の勉強を継続するようにした。勉強のベースは IELTS のフリー問題を継続して解くことをベースにした。エディンバラ大学から事前課題が出された後は、その一部である5分のTEDのリスニングを毎日3本ずつ続けた。

2. 研修内容や学校（内容と時間数・携帯、授業の感想、学生同士の交流など）

エディンバラ大学は50分1限という体制になっており、研修は週20時間のプログラムになっている。9時スタート13時終了 ポスター発表と最終プレゼンという大きな課題があるため、2日3日は放課後すぐ家で準備という日もあったが、ほかの日は課題も2時間で終わる量で、自由な時間は多かった。

現地配布のテキストをベースに授業は進められるが、個人的に感じたのは、授業で英語を伸ばすという面より、全体を通して英語のコミュニケーションを活発に行う面が強いという点である。（授業ではプレゼンやライティングに対して、欧米のアカデミックな世界に身を置く人からしか聞けないアドバイスを頂くことができたので、決して授業が不十分なわけではない。しかし、聞いていけば英語がのびる授業というよりは、学んだことをどう活用するかにかかっている授業でもある。その点では、ある程度の英語力は前提とされていると感じる。参加条件を下回っての参加はお勧めしない。

現地学生との交流は、1クラスにメンターとして2、3人の現地学生（日本学科の人が多い？）がついてくれ、そのほかの生徒とは特にプレゼンの準備でのインタビューで話しかける機会があった。名大の写真部に所属しているので、現地の写真部と交流したかったが、コロナの状況も含めて考え、結局かなわなかった。いつもの年であれば、本人の積極性次第で交流の機会はいくらでも増やせると思う。

日本人とのかかわりとしては、平時であれば常に日本の大学が1週間ごとに入れ替わるようになってくるといったが、今回は名大以降の大学は派遣中止などの判断をしていた。名大の前は金沢大学と関西学院の法学部のチームが来ており多少交流はあった。また、梶山の人たちが交換留学生としてかなり多かった。こちらもプレゼンの準備でのインタビュー課題で協力してもらったりした。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

内容としては、今回はコロナの関係でホームステイではなくアパートに直前で変更されたため、現地の生活という面では触れる部分は少なかった。自炊経験のほとんどない状態で行くことになってしまったが、ロンドンの経験から冷凍食品（しっかりしていて安い）を特に活用した。外食は高い。金銭面では現金 6 万 5000 円分（約 400 ポンド）と限度額 5 万のカード 2 枚という体制を取った。最終的には総額 9 万円程度（カード 6 万現金 3 万）になった。かなりキャッシュレス社会になっており、つもりをすれば現金 100 ポンドを予備で持った上で全額カード決済も不可能ではないと思う。

携帯電話は自分のメインがSIMフリーの携帯だったため、SIM購入のみで特殊な手続きはしていない。ロンドンの経験から 3（Three）という現地の会社のSIMを使った。業者の仲介を介さず amazon で直接購入した（2000 円）。ただし、本人がパソコンや携帯に詳しくない場合はこの方法はお勧めしない。フリーWIFIがあちこちで飛んでいるので、信用できるところにのみ繋いで利用し、結果として通信容量にシビアになることはなかった。

4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

コロナに関連して、差別的な場面がなかったとは言い切れないが、同時期のロンドンに比べれば平和で、全体としてエディンバラの治安は非常に良いと思う。写真部としてカメラを 2 台首からぶら下げていても普通に歩いてしまうくらいだった。取った安全策としては、財布は 2 つ持っていき、一つは現金 100 以下とカード一枚でポケットに入れ、残りの現金ともう一枚のカードを入れた方を部屋のスーツケースの中に入れていた。加えて公共交通機関で居眠りをしないというのも重要かもしれない。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

最低限の英語は必須です。そして、受動的に授業を聞くというよりは、積極的に人に話しかける、授業の知識をプレゼンなど実戦に生かすなど、能動的に動くことで、初めて実のあるプログラムになると思います。その上で、趣味（僕の場合は写真・カメラ、ほかの人は鉄道や音楽など）があると現地で行きたいところ、やりたいことが増え、趣味の部分であればコミュニケーションも積極的に取れるようになっていきます。行く前に、自分を見つめて、自分の芯をもって参加すると良いでしょう。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
プログラム費用	550,000 円	航空券代、授業料、ホテル宿泊費など
海外旅行保険	18,000 円	
食費、雑費	52,324 円	
現地での交通費	4,258 円	チップを含む
観光（美術館、エジンバラ城等）	10,122 円	
お土産	19,982 円	
その他（カード支払い）	58,096 円	
合計（研修のために払った費用）	712,782 円	

短期研修報告書

記入 | 2020年 3月
所属&学年 | 工学部 2年生

留学先大学（国名）	エディンバラ大学（イギリス）
短期研修のプログラム名	スコットランド特別研修
留学した期間	2020年2月22日(土)～3月15日(日) 23日間

1. 留学前の準備（応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など）

英語を話せるようになりたい気持ちがあるものの全く英語の勉強は初めておらず、なにか良いきっかけはないかと探していたところ、夏に短期留学に行った友達の話聞いてこの短期研修に参加したいという気持ちになった。申込手続は何かと大変でかなり手間取った。事前の語学対策はするつもりでいたが、アルバイト等で思ったほど時間がとれず、ほぼできずに出発日を迎えることになった。

2. 研修内容や学校（内容と時間数・携帯、授業の感想、学生同士の交流など）

初めは簡単な自己紹介や先生によるスコットランドの紹介から始まり、最初はとても気楽に授業を受けられた。また12人でやるはずであった授業が7人キャンセルして5人でやれることになったのでひとりひとりが先生と話せる時間は倍以上になりそこはとても充実していたと思う。しかし、主に自分の力不足のせいではあるが、日本語でも難しいスコットランドの政治形態や教育体制についての議論を求められると途端に聞き取れなくなり会話には入れなくなった。ためにならなかつたとはいわないが、初海外の私には新鮮であると同時にとてもハードだった。先生はどの方も優しく、うまく言いたいことを伝えられない私のことも理解してくれていたのが居心地はとてもよかった。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

長期に滞在することになったアパートメントはとても心地の良いつくりで、一緒に泊まった名大生ともリビングや風呂は共有だが、お互いにベッドルームは別れていたの、知り合っても関係にはちょうど良い距離感を保つことができた。キッチンにはパスタを扱う tong や菜箸がない（これは仕方ない）など多少不自由な点はあったが、必要なものは大抵そろっていたので、さほど困らなかつた。食洗機は洗剤らしきものがおいてあったが洗濯機用か食洗機用か、どう使うのか、などがわからず最後までほぼ使わなかつた。洗濯機も前述のような洗剤問題や使い方がわからないなど不自由な点が多く、洗濯は下着だけにして使う頻度をなるべく減らした。ハンガーは持参して良かったと思う。部屋にも3つか4つは準備されてあったが実際足りなかつた。

また、ホームステイが中止になったのでいかに自炊と外食を両立させるかが大事であった。日本とはスーパーで安く売っているものが違つたのでそれを知るの面白かつた。特にジャガイモやパンやパスタが非常に安かつた。パスタソースの品揃えがとても豊富であったのでそれを買って少なくとも5回はパスタを作つた。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

アジアを出たことがなかった私の感覚からすれば、ヨーロッパの治安は未知数でとても不安だった。しかしいざ行ってみるとエディンバラだけでなくロンドンもそれなりに安全だったのでとても気持ちよく過ごすことができた。パスポートをアパートに忘れてイタリアンのお店でワインを飲んだ際に年齢確認に困ったこともあったが、お店の人は寛容で許してくれた。ただ現地の人はいくら土地勘があっても Google Maps を使わないとしても、日本人のように歩きスマホをしていたり、見えるポケットに貴重品を入れていたりはないな、とは思った。きっと現地の人から見れば細心の注意を払っていた私でも防犯意識が低いなと思われていたに違いないと思う。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

コロナウイルスの影響でホームステイがなくなるなど物足りない点は多少なりともあったが、最後まで予定通り授業は進んだし、帰国のタイミングはベストであったので、とても行って良かったと思う。現在の英語の能力はどれくらいであっても、海外で滞在して異国の文化に触れることで、自分の視野を広げ、いろいろな人と関わり合うことに可能性を感じたので、お金のある限りは本当に誰でも行ってみたいと思う。

6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
プログラム費用	580,000 円	航空券代、授業料、ホテル宿泊費など
海外旅行保険	18,000 円	
食費	65,000 円	外食が多めで、お酒をよく買った。
現地での交通費	35,000 円	休みの日のロンドン往復、ネス湖往復等
その他 (小遣い、通信費など)	40,000 円	お土産 (服を含む)、SIM 代など
合計 (研修のために払った費用)	738,000 円	

短期研修報告書

記入 | 2020年 3月
所属&学年 | 情報学部 2年生

留学先大学(国名)	エディンバラ大学(イギリス)
短期研修のプログラム名	スコットランド特別研修
留学した期間	2020年2月22日(土)~3月15日(日) 23日間

1. 留学前の準備(応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

ガイダンスがあったので、その通りに手続を進めていった。英語の勉強は与えられた課題を行い、それ以上のことはやっていない。

日本のことについて調べるといことは特にあまりしていない。ホームステイが中止になったこともあり、スコットランドの観光地や、お土産などについてよく調べた。

2. 研修内容や学校(内容と時間数・携帯、授業の感想、学生同士の交流など)

基本的に授業は午前中。メンターと先生以外との交流は基本的にあまりない。

ポスター発表、リサーチプロジェクトとそのプレゼンもあり、その準備は宿題であった。他にも宿題は結構あった。大学の英語の講義に似たような印象。

3. 生活(住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

基本的に外食が高かった(£10前後)、弁当用のタッパーは重宝した(とはいえ向こうでも£1で売っているが)。朝食は日替わりでパンとシリアルを食べた。昼食はサンドウィッチを作って持っていった。夕飯には、冷食や即席料理が比較的安くかつ味もいいため、自炊の際には活用した。冷食+手料理一品で一食分みたいなことが多かった。主食はジャガイモが多かった。めちゃくちゃうまい。野菜を茹でたり、オーブンがあったので肉を焼いたりもした。スープが作り置きもできるし便利。日本からカップ麺等も持ってきたが、そこまで食べなかった。

洗濯は気が向いたらやるくらいだったが、3,4日に一回くらいしていたと思う。洗剤は日本から持ってきたもの。アパートに置いてなかったのが必須だった。

風呂にはバスタブがあったので使った。

visaカードはほぼ必須だった。チケットを取るときにあると便利(もしくは必須)な上、電車のチケットは予約のほうが圧倒的に安く買える。また、小銭とカードを併用した買い物をするので、残った小銭を使い切ることも可能だった。

疲れが異常にたまるので、夜は死んだように眠りに落ちた。ふいに寝落ちをすることもあった。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

ウエストポーチに貴重品を入れておいて肌身離さず持っていた。
危険を感じたことは特になかった。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

宿泊しているところで、レンジから煙が出て火災報知機が作動し人がたくさんと消防車が二台きたり、休みの日にロンドンに行って、帰りのフライトを逃したりとトラブルはあったが割とどうにかなった。わりとトラブルがあってもどうにかなる事は多いと感じた。良くない思い出にはなったが。電車で酔っ払って歌って叫ぶ若者の集団がいて、最初は怖いと感じたが、私（もちろんみな知らない人）に話しかけて話が盛り上がったりとスコットランドの人は結構フレンドリーだと感じた。

自由な時間が結構あるので、何をしたいか考えないと時間が無駄になります。日本への土産は多く買ったつもりでも意外と少なかった。

6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
プログラム費用		
海外旅行保険		
食費		
現地での交通費		
その他 (小遣い、通信費など)		
合計 (研修のために払った費用)		

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付も歓迎します。

↓↓↓

じゃがいもが美味しいし安い。冷食もクオリティが高い。サーディン缶も美味しいし安いし汎用性が高いしで便利。サーディン缶を土産に買っていけばよかったと後悔。魚介類だから検疫には引っかけられないらしい。楽器を土産に買ったが安いしVAT帰ってくる可能性もありお得だった。

the Lion king のミュージカルがやっていたので観た。結構安かったしクオリティが高かった。

日用品にしろお土産にしろ、安い店を探したり品揃えを見たりするだけでも楽しかった。個人的には pound land (百均ショップみたいところ) と M&S (巨大スーパーみたいところ) と lidle (安いスーパー) には非常にお世話になった。

Arthur' s Seat は本当に景色が良かった。楽器を演奏する人間であればきっとあれは楽器を演奏したくなる。私はした。他の人との会話の種にもなったし気持ちよかったし本当に良かった。

土日を利用してロンドンにも行った。5 で書いた通りのことが起こった。ロンドン自体は面白かった。ホテルで知り合った人とバッキンガム宮殿の衛兵交代を見に行ったりした。が、個人的にはロンドンよりもスコットランド (エディンバラ) のほうが好きである。エディンバラの街は歩いているだけで楽しかった。